

令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原簿記専門学校神戸校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原簿記専門学校神戸校 学校関係者評価委員会は、2018年度
自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和元年7月17日

2. 学校関係者評価委員

面高 潤也 氏 (医療法人社団三聖会三聖病院 事務部長)
釜田 亮佑 氏 (MGS税理士法人神戸事務所 税理士)
黒木 輝幸 氏 (株式会社サップス)
小山 喬史 氏 (青山商事株式会社法人部 マネジャー)
山本 武弘 氏 (青山商事株式会社三宮店 上級店長)
星山 潤三 氏 (兵庫県行政書士会 神戸支部長/行政書士法人中尾パートナーズ 行政書士代表社員)
前原 啓二 氏 (前原会計事務所インターナショナル・アウトリーシング 有限会社 代表取締役 公認会計士)

(事務局)

重塚 悟 (大原簿記専門学校神戸校 校長)
小宮 英樹 (大原簿記専門学校神戸校 専門課程教務1課 課長)
阿波谷 亮治 (大原簿記専門学校神戸校 専門課程教務2課 課長)
嘉来 正人 (大原簿記専門学校神戸校 専門課程教務1課 課長補佐)
河崎 達 (大原簿記専門学校神戸校 専門課程教務1課 課長補佐)
松尾 慎介 (大原簿記専門学校神戸校 専門課程教務2課 課長補佐)

3. 学校関係者評価報告

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・育成人材像	1	理念・目的・育成人材像	70%	教育理念・目的は書籍や小冊子として全教職員に配布され周知徹底されている。学園の特色の一つが『教育ストーリーを3段階に区分』して実施することである。これにより「就職」と「資格取得」の実績を生み、有為な産業人を育成することができている。この資格取得と就職実績をさらに向上しつつ、実習教育を充実するために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。	・適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	90%	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて管理職会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。	・適正に運営されている。
		3	事業計画	90%	学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。	・適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。	・適正に運営されている。
		5	人事・給与制度	80%	要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。	・適正に運営されている。
		6	意思決定システム	90%	理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。	・適正に運営されている。
		7	情報システム	50%	学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。役目を終えたシステムなどが残されており整理統合に取り組んでいる。	・適正に運営されている。

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	8	目標の設定	90%	毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の内容を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 また、各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	・適正に運営されている。
		9	教育方法・評価等	70%	教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、卒業生、関連企業等と協力した検討会によっている。 また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善を行っている。	・適正に運営されている。
		10	成績評価・単位認定等	70%	成績評価・単位認定は客観的な方法で常に明確に行っている。毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。 また卒業研究については、研究内容設定から成果評価まで企業・官公庁に協力いただき、現在のビジネス現場に応じた実践的内容で実施することができている。	・適正に運営されている。
		11	資格・免許の取得の指導体制	90%	資格取得の体制については一定の水準は維持できている。保護者への教育方針の理解を高めること、また教員が資格免許の最新情報を入手することで、より教育の質を高めたい。	・昨今教員の負担が話題になっているが、その中でも教員が自己研鑽できる時間が取れているか心配である。教員の自己研鑽の時間の確保をお願いしたい。
		12	教員・教員組織	70%	教員の確保については、常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。	・適正に運営されている。

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
4	学修成果	13	就職率	80%	就職・公務員希望学生への就職・公務員指導においては、教員が個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。しかし、コースによっては教員一人あたりの担当学生数が多く、教員の負担軽減が課題である。また、達成状況（内定率）は学園本部で管理されている。	・適正に運営されている。
		14	資格・免許の 取得率	70%	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。一部高度な国家試験等を除き、大半の学生が合格できるよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	・専門学校の資格取得実績は非常に高く、大きく評価できる。引き続き、高い資格取得実績を維持していただきたい。
		15	卒業生の 社会的評価	50%	公務員職に就いた卒業生を除き、毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。課題発見能力、課題解決能力が不足している点を複数の企業担当者から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。	・資格取得等の教育実績も重要であるが、やはり社会ではコミュニケーション能力が欠けると今まで培った能力が発揮することができない。コミュニケーション能力向上を意図したビジネスマナー教育やグループディスカッション等も授業に取り入れ、社会で活躍する人材育成を行って欲しい。

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	16	就職等進路	80%	就職内定・公務員内定は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。内定獲得に必要な指導内容は2年間または1年間のカリキュラムの一環として組み込まれ、高い内定率を実現している。一部卒業後も国家試験合格を目指して学習する学生もいるが、全日制集中資格コースや社会人講座との教育連携した進路指導ができています。	・適正に運営されている。
		17	中途退学への対応	60%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。家庭との連携も欠かせない。	・適正に運営されている。
		18	学生相談	60%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	・適正に運営されている。
		19	学生生活	80%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	・適正に運営されている。
		20	保護者との連携	80%	保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書が発送される前については確実に保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が困難なケースが多く、また理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	・なかなか解決できない問題かもしれないが、家庭との連携面で教員の負担が増大していないか心配である。
		21	卒業生・社会人	60%	卒業生への支援体制としては、担当窓口または卒業担任が問い合わせに応じて対応している。担当窓口または卒業担任と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。また、大学生や社会人などのニーズに応える制度の開発をさらに進めていく。	・適正に運営されている。

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
6	教育環境	22	施設・設備等	70%	施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。	・適正に運営されている。
		23	学外実習、インターンシップ等	70%	実習や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会を設け、参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。	・適正に運営されている。
		24	防災・安全管理	70%	保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。	・適正に運営されている。更なるブラッシュアップを図っていただきたい。
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動	80%	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起ささないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。留学生については、日本語学校への情報提供、連携を強化し、適正な受入れ、在籍管理を行っていく。	・適正に運営されている。
		26	入学選考	70%	学生一人ひとりに対して、書類選考を必ず行っている。また、必要に応じて面接選考を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っている。また、入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを今後行う必要があるかと考える。	・適正に運営されている。
		27	学納金	90%	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等を常に確認しながら、負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	・適正に運営されている。

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
8	財務	28	財務基盤	90%	学生募集については、学科・コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。	・適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	90%	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	・適正に運営されている。
		30	監査	90%	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄附行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	・適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報はWEBサイトで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	・適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	・適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	・適正に運営されている。
		34	学校評価	90%	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、HPにも掲載している。 外部者による学校関係者評価を行い、報告書はHPに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	・適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	50%	学校の概要や教育内容はHP等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	・適正に運営されている。

<自己評価> 0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2018年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	60%	従来より附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供できるようにしていく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのも提供したいと考えている。	・現在の取り組みにつき、評価を頂戴した。2019年度の取り組みとして紹介した官公庁と連携した活動については特に評価を頂戴した。
		37	ボランティア活動	50%	ボランティア活動は学生の希望者のみ参加している。	・ダイバーシティ化が昨今進んでいる中で2点具体的な意見を頂戴した。1点目は介護福祉施設等での高齢者の方を対象としたボランティア活動、2点目は保育園や幼稚園での子どもを対象とした運動教室等の活動といった点である。

4. 学校関係者委員会総括

専門知識の修得と人格育成教育を軸とした教育システムに取り組まれることは、専門学校の絶対的な使命であり、その点に真摯に取り組まれていることは多くの卒業生の活躍から理解できる。

コミュニケーション力の向上が図られていることは大変喜ばしいことであるが、引き続き重点課題として取り組んでいただきたい。実社会では能力があるにも関わらずコミュニケーション力不足で損をされている方が多数いらっしゃることもあり、学生の中に一定のコミュニケーション力を身につけてほしい。そのツールとして地域社会への貢献についても力を入れてみてはどうか。引き続き、大原簿記専門学校神戸校の存在意義を十分に示すように取り組んでいただきたい。